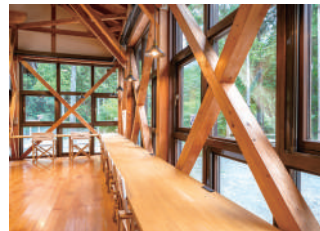




今年度からスタートした第6次小田原市総合計画。本市が目指す、2030年の姿「世界が憧れるまち“小田原”」の実現に向けまちが育っていく-GROW-ようすをお伝えする、広報小田原特別編「GROW」。7つの重点施策を年4回に分けて特集します。



7つの重点施策

1. 医療・福祉
2. 防災・減災
3. 教育・子育て
4. 地域経済
5. 歴史・文化
6. 環境・エネルギー
7. まちづくり



「地域経済」「歴史・文化」

— 多様な働き方を支援するまち、歴史・文化の魅力でにぎわうまちに —

「地域経済」分野では、「新しい働き方・多様な働き方」「オープンイノベーションと新しいビジネス」を支援する、環境整備の取り組みを紹介。

「歴史・文化」分野では、小田原城を中心とした名所巡りにおける回遊性の向上や、「御用米曲輪」の整備など、小田原の歴史・文化の魅力を高めるための取り組みをお知らせします。

|2-3| 小田原で広がる「多様で柔軟な働き方&新ビジネス」 |4-5| 大解剖! Work Place Market ARUYO ODAWARA
|6-7| 「小田原城」を中心に、歴史・文化の魅力を向上 | 8 | 史跡小田原城跡「御用米曲輪」整備の足跡と未来

GROW

広報小田原特別編



市と民間企業が連携して「働く場」を整備 小田原で広がる「多様で柔軟な働き方&新ビジネス」

コロナ禍でテレワークの導入が急速に進み、働く人々を取り巻く環境が激的に変化し続ける今、多様で柔軟な働き方が注目されています。市ではそうした環境を整備する施策を推進しています。

背景 #1

働き方が多様化する時代

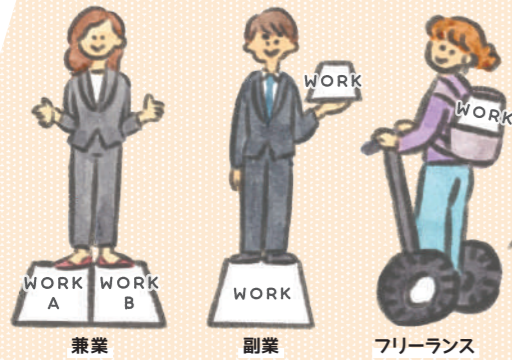
コロナ禍の影響により、「東京集中」や「通勤」への価値観が一変。デジタル化の進展も相まって、企業と働く人との関係性が変わりつつあります。それぞれの人が望むように働き、主体的にキャリアを磨くためにも、多様で柔軟な働き方の確立が求められています。

仕事と生活の調和



仕事第一主義から「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」が求められるように。

スタイルにとらわれない



兼業や副業、フリーランスといった多様な働き方に向けた環境整備が求められるように。

場所にとらわれない



デジタル化の推進によって、オフィスではなくても仕事ができるテレワークが取り入れられるように。

背景 #2

今まさに、小田原のポテンシャルがベストマッチ

テレワークやワーケーション※1が浸透する中、**川のチカラ**※2が注目を集めています。地域資源が豊かな小田原は、働く場としてのポテンシャルを秘めています。

※1 テレワークを活用し、ふだんの職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間を過ごすこと
※2 豊かな自然環境、産業、歴史・文化など、小田原の魅力を表したブランドロゴ



自然に恵まれた環境

森里川海が近くにまとまっていることで、ふだんの生活や趣味が豊かになり、ワーク・ライフ・バランスは、奥行きのあるものになります。



顔の見える関係性

歴史ある産業から生まれた、事業者同士の「顔の見える関係性」が、起業家や新規参入者を大きく後押しします。



便利な交通網

「場所にとらわれない」とはいつても、東京とは離れられないという声も。東京との程良い距離感(新幹線で東京まで約30分)と交通網の充実が魅力です。

続々オープン! 「自分らしい働き方」が見つかるワークスペース



海が見えるワーケーション施設

ワーケーションハウス
Workcation House
ユウ



市の支所だった施設を公民連携によりリニューアルした、ワーケーション施設です。利用者からは、「Wi-Fi環境などが整い、重宝している」といった声。市外の人からも「室内からでも海沿いに位置していることを実感でき、とてもよかった」などの声が寄せられています。

- 場所** 根府川77-1
- 設備** コワーキングスペース※3(60席程度)、貸会議室1部屋、ゲストルームなど
- 営業時間** 9:00~18:00

利用料金や利用方法など詳しくはこちらから▶



※3 さまざまな人たちが出入りし、共用型のオープンスペースで働く場所。利用者同士でコミュニケーションを取りやすいことが特徴



川のせせらぎを聞きつつテレワーク

コワーキングスペース
ユラギ
YURAGI



いこいの森のキャンプ場「RECAMPおだわら」内にあり、アウトドアも楽しめます。こちらも既存の施設を改修したもので、ふんだんに木材が使われています。屋外にはウッドデッキが設けられ、溪流のせせらぎや鳥のさえずりを聞きながら仕事することもできます。

- 場所** 久野4294-1
- 設備** コワーキングスペース(12席程度)、屋外デッキ6か所など
- 営業時間** 10:00~17:00

利用料金や利用方法など詳しくはこちらから▶



緑に包まれての仕事もOK



屋外のウッドデッキ。屋内と変わらない快適なネットワーク環境が整備されており、デッキには電源も付いています。テーブルと椅子は無料で貸し出しOK。

快適に仕事ができる



Wi-Fiを完備した屋内スペース。安心のセキュリティ設定で、通信速度も快適です。電子レンジやポット、会議テーブル、印刷機などもそろっています。

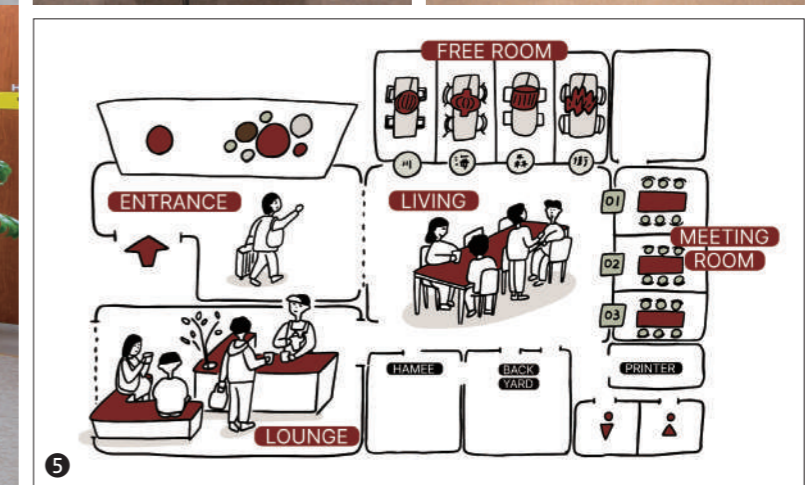
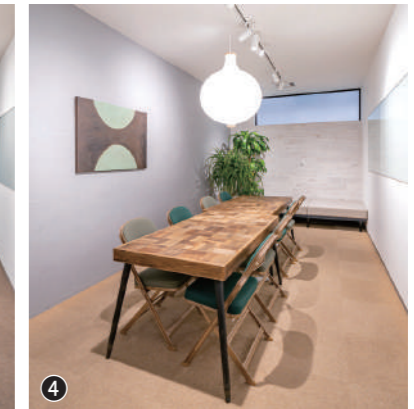
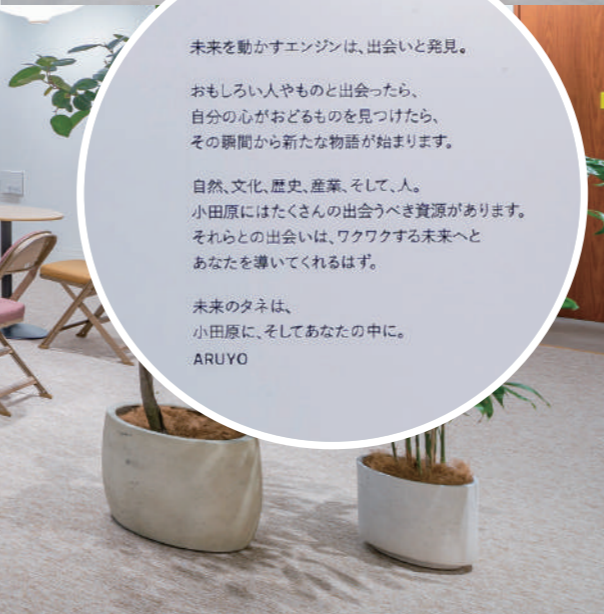
森でのリラックス&リフレッシュ



休憩タイムには森林浴が楽しめます。大型グリルを設置した本格的なバーベキュー場もあり、小田原ならではの魚介類やブランド肉を味わうこともできます。



市では、起業家や事業者などが中心となってコミュニティを醸成し、新しいビジネスや地域文化を生み出す取り組みを支援しています。その一環として、昨年9月30日に「ARUYO ODAWARA(以下「ARUYO」)」がオープン。「ワーク・プレイス・マーケット」の名のとおり、この施設が目指す姿は“多様な働き方の見本市”です。運営は市から業務委託を受けた「一般財団法人 八三財団」が行い、起業家や事業者による市内での事業展開などをサポートしています。



- ①中央に位置する「LIVING(リビング)」。4人掛けできる一枚板テーブルの他、打ち合わせにも適したテーブルが並びます。
- ②ARUYOのコンセプトを掲げた「ENTRANCE(エントランス)」。
- ③川海森街のコンセプトを生かした「FREE ROOM(フリー・ルーム)」。
- ④こちらは「森」をイメージしたFREE ROOM
- ⑤フロア図。出会いと発見のチャンスを生み出す空間設計

場所
栄町2-12-10 1階

受付時間
10:00~20:00
(土・日曜日、祝・休日、年末年始を除く)

設備
コワーキングスペース
(30席程度)
ミーティングルーム
(定員8人)3部屋 など

▲ホームページ ▲インスタグラム

ARUYOには「何がある?」について
運営スタッフに伺いました!



Work Place Market ARUYO ODAWARA
コミュニティマネージャー
& ブランドプランナー
根岸 亜美さん

いろいろな思いを込め「ARUYO」と命名

小田原で働くさまざまな人たちが出会い、新たなビジネスやカルチャーを生み出す場として、ARUYOは生まれました。ここ小田原には、自然や産業、歴史や文化といった資源が豊富にあります。「地域資源があるから“ARUYO”」「誰にでも未来を拓くタネはあるから“ARUYO”」など、いろいろな思いや期待を込めてこの場所を「ARUYO」と名づけました。ARUYOをきっかけに利用者に新発見がもたらされ、仕事はもちろん、暮らしや人生の充実を得てほしいです。

ARUYOには、利用者同士のコミュニケーションの活性化を図る他にも、ビジネス相談窓口の機能もあります。小田原でビジネスを展開しようとする人の相談に、対面・オンラインの両方に対応します。お気軽にお問い合わせください。



ARUYOにある「出会い」について
利用者に伺いました!



株式会社 小田原社中
代表取締役 大番頭
(2022年6月 会社設立)
ARUYOメンバー*1
佐藤 怜さん

*1 ARUYOの個人会員

地域とのつながりをもたらす場

起業家・事業者同士の出会いを求めてARUYOを利用しています。起業した自分と同じ状況にある人たちが、共に悩みや事業について相談し合える環境があり、とても有益です。「ARUYO SNACK」といった交流イベントもあり、利用者同士で気軽にコミュニケーションを取ることできます。

コロナ禍でテレワークが普及した今、都心へのアクセスがよく自然豊かな小田原を活動拠点に選びました。また、小田原は事業者間のコミュニケーションが円滑です。ARUYOを通じて事業成長に必要な小田原の人や企業を紹介いただき、皆さん快く協力してくれます。こうした魅力あふれる地域とつながるきっかけを、ARUYOはもたらしてくれます。

ARUYOにある「支援」について
利用者に伺いました!



神奈川県 HATSU 起業家
支援プログラム
チャレンジャー*2
鳩村 加奈子さん

*2 神奈川県が募集・選考のうえ実施する、伴走型集中支援の対象となる有望な起業準備者

助言が得られ、人脈も広がります

犬に関わる事業を興そうとした頃、小田急沿線に住んでいた私の目に留まったのは終着駅の小田原でした。豊かな自然があり、新しいことを始めるには最適な場所だと直感。自然の中で手軽にペットと遊べる事業を発案しました。

そうした中、神奈川県がARUYOを拠点に実施している起業家支援プログラムにエントリーし、支援を受けることに。事業実現に向けた助言をメンターからいただいています。市外で生まれ育ったため小田原との接点はありませんでしたが、ARUYOを通じてネットワークを広げることもできました。こうしてつながった小田原の人たちはみんな温かく、ARUYOのありがたみを感じています。

交流人口^{※1}の増加に向けて進行中！

「小田原城」を中心に、歴史・文化の魅力を向上

※1 その地域に訪れる人々のこと。

小田原城を中心に歴史・文化資源を活用し、各地区の魅力をさらに高め、交流人口の増加を目指します。現在、「史跡小田原城跡」にある御用米曲輪を整備(詳しくは、P.8をチェック!)している他、公民連携による歴史的建造物の利活用を図っています。地域の歴史・文化資源を着実に保全するとともに利用者サービスを向上させ、邸園文化^{※2}の魅力を発信します。

※2 本市には明治時代以降に政財界人や文化人が多く移り住み、邸宅と庭園が一体の別荘や別邸が多く造られ、そこでさまざまな交流が生まれたことから「邸宅」と「庭園」を合わせた造語「邸園文化」と総称しています。

松永記念館
茶人としても名高い松永安左衛門(耳庵)の古美術品を公開するため松永翁自ら建設。美術品などの展示を行う他、茶室の公開や茶会利用などを行っています。



旧内野醤油店
3代約100年にわたって醤油醸造業を営んだ旧家。今後、耐震改修など安全性を確保した上で公民連携による利活用を予定。



皆春荘
明治の元勳・山縣有朋の別邸。山縣の暮らしを追体験するなど、邸園文化に思いを馳せるイベントなどを開催予定。

邸園文化となりわい文化の融合
板橋旧街道周辺地区
板橋旧街道には、なりわいが残る店舗や日本最古の上水道「小田原用水」などがあります。この歴史的資源と近代の政財界人が残した別邸との融合を図り、歴史が感じられるまちづくりを進めています。

小田原の象徴として愛され続けるために
小田原城
歴史散歩などを通して総構のブランド化を進めるとともに、天守閣や大手門の在り方について調査・研究を進めます。散策しやすい環境を目指して園路整備やトイレ改修などを実施。今後、安全性を高め景観をよくするため、電線地中化工事を実施する予定です。



交通の要衝・城下町として交流を促進
小田原駅・小田原城周辺地区

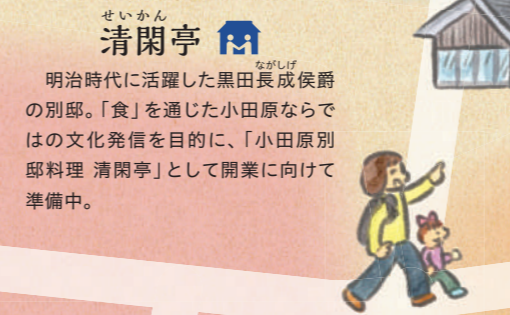


豊島邸
端正な座敷を有する上質な近代和風住宅。旧城下町をしのばせる「食」とともにギャラリーを併設し、公民連携による利活用を開始予定。

観光交流センターを核とした回遊性の向上
小田原の魅力を伝える核としてオープン。小田原城周辺とまちなかの回遊だけではなく、市内全域に広がるエリアへの回遊も促す情報を発信します。小田原のファンやリピーターをさらに増やす目的で、市民と来訪者の交流も促します。



清閑亭
明治時代に活躍した黒田長成侯爵の別邸。「食」を通じた小田原ならではの文化発信を目的に、「小田原別邸料理 清閑亭」として開業に向けて準備中。



旧松本剛吉別邸
山縣有朋と親交が深かった政治家・松本剛吉の別邸。観光ガイド機能をもつとともに歴史・文化などのイベントなどを開催予定。茶室「雨香亭」もあり。



小田原宿 なりわい交流館
地域住民の交流の場や観光客の案内拠点としての活用を促進。

水産加工業と伝統文化が息づく地域
かまぼこ通り周辺地区
かまぼこや干物といった水産加工品の製造と出荷の店舗での販売の他、小田原総鎮守「松原神社」の祭礼行事(神輿や山車)など歴史や伝統を後世に引き継ぎ、地域活性化に資するまちづくりを進めています。

国道1号沿いに走る鉄道
風祭駅周辺地区

このマークのある歴史的建造物は、民間事業者と連携して活用します。

日本で一番、駅から近い漁港
早川・小田原漁港周辺地区
JR早川駅の目の前には、新鮮で豊富な魚種が水揚げされる漁港があります。
小田原漁港▶



小田原文学館本館 小田原文学館別館(白秋童謡館)
小田原出身の文学者やゆかりのある文学者について、その生涯や作品に関する展示をしています。

歴史的たたずまいと文学が薫るまち
西海子小路周辺地区
江戸時代、西海子小路には武家屋敷が多数存在。明治以降は北原白秋や谷崎潤一郎といった文豪が居を構え、政財界人は別邸を建てました。これらの歴史的景観と閑静な住環境を保全しつつ、その風情を伝えるまちづくりを進めています。

史跡小田原城跡「御用米曲輪」整備の足跡と未来

歴史・文化資源の魅力を上向きさせ、史跡としての歴史的な価値を高めるための事業を進めています。その一環として、城址公園がより魅力的な場となることを目指し、御用米曲輪を整備しています。

御用米曲輪

御用米曲輪とは、天守がある本丸の北側に位置する堀と土塁で囲われた平場で、江戸時代には幕府の蔵が置かれていました。江戸時代末期のようすを描いた城絵図には、平場に3棟、北東土塁の上に3棟の蔵が建つようすが描かれています。市では、発掘調査の成果などを基にして、平成22年度から継続的に御用米曲輪の整備を実施しています。



▲城絵図「文久図」に描かれた御用米曲輪(江戸時代末期)



▲御用米曲輪(平成24年度撮影)

平成22年度

御用米曲輪の整備開始 その目的とは？

昭和13年に国の史跡指定を受けた史跡小田原城跡。平成10年以降に銅門や馬出門などが順次復元される中、御用米曲輪の整備は平成22年度に始まりました。市民や来訪者に小田原城の歴史を深く理解していただくため、曲輪の本来の形を明確にし、史跡としての歴史的価値を高めることを目指しています。

平成25年度

小田原北条氏の重要な 建物跡や庭園跡を発見

整備に先立ち実施した発掘調査では、江戸時代の地層の下から、戦国時代の小田原北条氏の重要な建物跡や庭園跡が発見されました。切り石で組まれたこれらの遺構は、全国的にも例のない大変貴重なもので、小田原北条氏の権威と豊かな文化を示す重大な発見となりました。



発掘調査説明会のようす▶

平成30年度
令和3年度

北西土塁と北東土塁 整備完了

平成30年度には北西土塁、令和3年度には北東土塁が整備されたことにより、曲輪の形が分かるようになりました。北東土塁上には、蔵があった範囲を石列で示し、その大きさが分かるように整備しました。

これらは、既に整備を終えた北西土塁側から、眺めることができます。



▲整備が完了した北東土塁

これから……

城址公園の魅力向上に 向けて整備を進めます！

江戸時代の遺構と戦国時代の遺構が併存する中で、御用米曲輪全体をどのように整備して後世に伝えるか、全国で整備を手掛けてきた学識経験者とともに検討を進めています。

整備が完了し、開放するまでには今しばらく時間がかかりますが、小田原城の新たな見所となるよう整備事業を進めていきます。



▲学識経験者との検討のようす